
議会改革検討会会議記録

令和3年1月19日

会 議 記 録

会 議 区 分	議会改革検討会	
開 催 年 月 日	令 和 3 年 1 月 1 9 日	開 議 午前 1 0 時 0 2 分 散 会 午後 0 時 1 7 分
場 所	苫小牧市議会 議会大会議室	
出 席 者	代 表 者	矢嶋会長、神山団長、松尾代表、松井代表、 小野寺団長、桜井会長、 触沢議員
	代理出席者	—————
	正・副議長	金澤議長、藤田副議長
欠 席 者	—————	
説 明 員	—————	
事 務 局 職 員	園田事務局長、宮沢事務局次長、能代副主幹、 小坂主査、神野主査、西野書記	
付 議 事 件 及 び 議 事 の 経 過 概 要	別紙のとおり	

●議長（金澤俊） ただいまから議会改革検討会を開会いたします。

●議長（金澤俊） 本日の議会改革検討会についてでございますが、本来は12月定例会の最終日に行く予定でございましたけれども、新型コロナウイルス対応のため中止とし、本日開催することとなったものでございます。

本日の案件は、お手元に配付の会議案のとおりであります。

お手元に資料として、資料1から4を配付させていただいておりますので、御確認をお願いします。

●議長（金澤俊） 最初に、資料1を御覧ください。

議会改革検討会決定・確認事項については、検討項目ごとにこれまで決定・確認されたことをまとめてあります。

前回9月11日に開催させていただいた検討会の中で、市民との意見交換の手法については正副議長案のとおりとし、意見交換会のテーマは投票率の向上に向けての取組について、団体は明るい選挙推進協議会、日程は10月19日、月曜日午後1時からとすることが決定しておりました。

また、市議会だよりの在り方についてを検討事項とし、現状の市議会だよりについては発展的に見直すことを決定し、市議会だよりに代わる情報発信の具体的な方法については、引き続き議会改革検討会において協議していくことを確認しておりました。

以上が、前回の議会改革検討会の決定・確認事項でございます。

最初に、本日の検討会の進め方ですけれども、市民との意見交換の手法について、投票率の向上に向けての取組について、市議会だよりの在り方について、傍聴者アンケートについて、議会改革検討会検討項目の進捗状況について、各会派から御意見を伺い、協議を進めたいと考えておりますが、そのような進め方でよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） それでは、そのように進めさせていただきます。

●議長（金澤俊） それでは、協議に入らせていただきます。

最初に、市民との意見交換の手法についてでございます。

先ほど申し上げましたとおり、10月19日に市民との意見交換会を開催させていただいております。

これからは、今後の市民との意見交換会の在り方について協議を進めてまいりたいところではございますが、まずは1回目の市民との意見交換会についての検証を行い、課題等の整理をしたいと考えておりますが、そのように進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●議長(金澤俊) それでは、そのように進めさせていただきます。

資料2を御覧ください。

市民との意見交換会の検証項目でございますが、正副議長といたしましては、6項目を上げさせていただきました。

また、各項目の下には、さきの意見交換会の内容を載せてあります。

資料に基づき検証を行ってまいりたいと思います。

それでは、この検証項目の6項目につきまして、一括で各会派の御意見を伺いたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長(矢嶋翼) まず、テーマにつきましては、やはり全国的な課題であります投票率の向上ということでございますので、テーマとしては大変よかったかなと思っておりますので、引き続きこの実現に向けて、皆さんと具体的に、ではどうやったら投票率を上げられるのかというようなことも、今後、やっていきたいなと思っております。ですから、テーマとしてはこの1、2、これでよかったのかなと思っております。

それから、対象団体につきましても、明るい選挙推進協議会さんということで、本当に広く薄く市民のためにやっていただいている団体でございましたので、今後の選択につきましても、こういった何か薄く広く市民の多くの関心を持つ団体さんを対象に話し合っていけばいいのかなと思っております。

参加人数につきましては、この前はあちらからは3名様でしたので、こちらは9人ということで、ひょっとしたら、できればこの辺りはバランスが取れたほうがいいのかと、どちらも同じぐらいな頭数の中での出席同士のほうが議論が一方的にならないでやりやすいのかなと思っておりますので、先方さんの団体の人数についてはもうちょっと増えても、例えば5名とか、五、六名ぐらいがいいのかなと思っております。

それから、意見交換の進め方ですが、私たちはどうしても議員ですから、しゃべるのが商売なので、ついつい持論を言うてしまうのですけれども、できるだけ相手、先方さんのお話を聞くというような、それをちゃんと受け止めて、そして今後に生かしていくということのほうがいいのかと思っておりますので、まずは先方さんの意見

で、何に困っているのかとか、こうしたいとか、先方さんの意見をまず伺うことを重点にする意見交換会のほうがよろしいのかなと思いました。

それから、会議時間につきましては、この前は結局1時間半ぐらいでしたが、もうちょっと時間があってもよかったかなと思っておりますので、2時間、1時間半、ないし2時間ぐらいがいいのかなと思っております。ですので、前回よりももう30分ぐらい余裕があってもよかったかなと思いました。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（神山哲太郎） 6項目の検証という話だったのですが、特にちょっと気になる点だけについてお話をさせていただきたいなというふうに思います。

4番の参加人数についてですが、やはりこれは先ほどもお話があったとおり、ちょっとやはり議員のほうが多いと威圧感とかそういったところの雰囲気にもなる可能性があるので、大体同程度の人数が本来であれば望ましいのではないかなというふうに思っていたところであります。

それから、5番目の意見交換会の進め方でありまして、やはりこれは第1回目ということもありましたけれども、やはり主は聞くことであるということに重点を置いてやっていくことが必要ではないかというふうに思いました。

それから、できれば意見交換会とあって、こういう形に、議員側とこういう形になってしまいましたので、コロナ禍ということもありまして、そういうふうになったということもありますけれども、やはりラウンドテーブルで臨むとか、そういったふうにしたほうがより活発な意見が出るのではないかなというふうに感じられたところがあります。

あとは別段、スムーズに進行したかなというふうに思います。やはり意見交換側、市民の代表者側のほうがいかにどれだけ話をできるか、そういう雰囲気づくりとか、そういった場のつくりをしっかりとやっていくことが重要ではないかなというふうに思っているところであります。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 今回の意見交換会は試行的な実施ということで取組をさせていただきました。

今検証項目6項目掲げていただきましたが、私どもはこの件については特に検証するような項目はなかったかなというふうに思っています。

その中で、意見交換会というところですので、2番目のテーマに対する議題の3番目、市議会や市議会議員に求めることということなのですが、意見交換をやはり形にするためには、市議会や市議会議員に求めるというテーマがありますので、双方がしっかり議論できるような空気をつくっていかないといけないのだなというふうに感じたところです。

その他は、特に試行的なところもありましたので、問題はなかったかのように考えております。

以上です。

●議長（金澤俊） はい、ありがとうございます。

改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） ちょっと全体的なことになるかもしれませんが、試行実施、今回の場合は明推協さんということで、特に議会とか市政のウオッチをされている方々で、ある意味これまでの経緯とかというのも承知して臨んでいただいた団体だというふうに思いますが、今後、これを本格実施する上では、それぞれ専門的というか、業界とか組合とかそういったところがターゲットになるのかなと思いますが、これまでの市の取組ということが、試行実施の場合、副議長のほうから説明をきちっとされて、共通認識の上に立って議論、懇談ができたというのはよかったのではないかなというふうに思っていますので、こういったことも、今後、心がけて実施をされたらどうかなというふうに思っています。

それと、お話があったように、議員がちょっとしゃべり過ぎたなというようなところで、聞くことに重きをとるところは私も感じているところでもあります。

それと懇談の中で、できれば市議会も我々の活動に協力して一緒に投票率の向上活動にしましょうというような呼びかけがあって、軽率にも私もそのとおりでということで、どんどんやりましょうなどということをしたのですが、その後、いろいろな事情があってできなかったということもありますので、もちろん今後の話合いの中では、そういった提案とか、向こうの求めというものが出てくると思っていますので、今回の試行実施の場合は正副議長からきっちり先方のほうに事情とその理由についてもお伝えをしていただいたということでもありますから、きっちりそういったところは今後の取組の中でも意識をしてやっていったらいいのではないかなというふうに思っています。

それと、最後でございますけれども、この市民との意見交換会を実施することによ

って、その結果をどうやって反映していくのかというところで、やはり常任委員会ごとになるのかどうか分かりませんが、それも反映の仕方というのをきっちり意識した中で懇談をしていくと、それを先方の市民団体にもお伝えをしながらやっていくということが大切ではないかなというふうに思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） はい、ありがとうございます。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） この日は私は残念ながら参加できなかったのですが、代わりに富岡議員に参加してもらったところです。

富岡議員からも経緯とこの意見交換会の様子をいろいろ聞かせていただいたところでした。今ほかの会派の皆さんが、代表の皆さんが言ったとおりのような認識だということを知っておりまして、聞くことに重点を置くということに工夫をしてみたほうがいいということで、私たちも3人の会派ですけれども、話し合ったところです。

そこで、あともう一点が、今回はテレビカメラが入ったことによって、かなり明推協さんのほうが緊張感を持たれて、話す内容も、なかなか話したいことも出せなかったような感じを受けたということでしたので、オープンでやるというのは大変よいことなのですけれども、この緊張感をほぐす手法というか方法というか、そういうのも工夫をしてみたほうがいいのかなと思いました。

この6項目、おおむねこういう方向でよかったのではないかとということで私たちもまとめております。

あと、先ほど改革さんからもあって、進行の中で副議長がこれまでの取組をいろいろ話されたということ、これもよかったということで私も聞いていたのですが、皆さんの意見を聞いて今思ったことなのですが、例えば事前に、今後この団体さん、意見交換会をする団体さんに、市議会としてこういう取組をしてきたのですよという経過をペーパーなどで事前配付しておいて、それを目を通してもらった上で意見交換会に臨むということにしたら、もしかしたら意見が出やすかったのかと、ふと今感じたところで、そういうところも工夫していけたらなと思いました。

以上です。

●議長（金澤俊） はい、ありがとうございます。

会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） まず、試行実施としてこういう相手方、明るい選挙推進協議会を選び、投票率の向上に向けての話合いをしたということで、それはおおむね一番最初のこととしてはよかったのではないかなと。

その上で、総論よかったのではないかという上で申し上げれば、やはり対象者が、ある意味では議会と本当は対比して、議会をチェックする側の人たちというところがある中で、先ほど松井代表も言われておりましたけれども、同じことを一緒に取り組むと言われたときに、なかなかできない部分があるというようなことなどで、やはりその立場というか、そういうものをきちんと見た、考えた上で対応をするべきだったかなというふうには思っております。そういう意味で、今後もいろいろな団体とこういう会を重ねる、その相手の性格とかそういうこともありますから、一つの今回の成果として、そういうことがあるのだなということで結構ではないかなというふうに思います。

そういう中で、人数なのですけれども、確かにちょっとバランス的には同じぐらいの数で討論されればよかったかなというふうには思います。ただ、これも例えば、今後、委員会などで意見を聞くようなときには、その会を代表するというような形で来られた方が、もう自分の持論を述べてもらおうと。我々はそれを聞いて、ちょこちょこっと議論をするというようなときであれば人数に少しバランスを欠くところがあってもそれはしょうがないのではないかなと。ですから、それは臨機応変に、今後、対応していただければいいのではないかと。

進行は、よかったと思います。

それと、時間なのですが、私もちょっと短かったかなと。もう少しあってもよかったかなとは思っておりますが、実質のやり取りで1時間半ぐらい取ってもよかったのではないかなと。セレモニー的なところをちょこっと入れて、2時間は超えないようにと、1時間半をちょっと超えるぐらいでよかったのではないかなというふうに思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） はい、ありがとうございます。

触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 皆さんのおっしゃるとおりだなと思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） ただいま各会派から検証項目についてそれぞれ御意見を伺いました。

おおむね皆さん、今回は試行ということもあって、中身としてはおおむねよかったのではないのかという御評価でした。

それから、幾つか指摘といいますか、改善案のようなものがあって、やはりその意見交換会の進め方として、相手側からもっと意見を多く聞く時間、聞くような形を取

ったほうがいいのかというところ、それから、やはり今回テレビ、マスコミさんが入ったことで非常にちょっと相手側がしゃべりづらくなったところもあったのではないかという話もございました。

それから、松井代表のほうから、私が大事かなと思ったのは、受けた要望なり提案、そういったものの結果をどう反映していくかということも、やはり今後の制度設計としては考えていかなければいけないところなのかなというふうにも思って聞いておりました。

それから、非常に評価が高かった藤田副議長の事前の説明、これは結構事細かく、説明もそうですけれども、事務局さんのほうと選管さんのほうで、これまでの数字であるとかもすごく時間をかけて用意していただいて、それを説明いただいたというところだったのですが、あれも本当によかったのではないのかなというふうに思っております。今後、議論していく上では、ああいうものも、議会がやってきたものも示しながらやるということは非常に大事なことかなと思っております。

それから、人数についても、バランスが大事ではないかという話もありましたので、この辺も今後の検討テーマかなということと、あと、時間も、やはり私が見ていても、何か皆さんもうちょっと話したいところもあったのかなというところもあるし、先方さんももうちょっとあったかなというところもありますので、この辺ももう少し延長しても、長く考えてもいいのかなというふうには思っております。

こういったところかなと思いますが、正副議長といたしましては、今出させていただきました検証の結果を基に、今後の本格実施に向けて制度設計を本格的に決めていく作業に入っていきたいと思っております。

そこで、今年度も3か月ほどというふうになっておりますので、3か月弱となっておりますので、具体的な目標として、やはり今年度中に制度設計を行って、新年度から意見交換会の本格実施を行っていくということになろうかというふうに思います。今後の方向性としてはそのような形で進めていきたいと思っておりますけれども、各代表の皆様よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●議長（金澤俊） それでは、そのように進めてまいりたいと思っております。

今後の制度設計並びにそのフレームみたいなものもつくっていかなければならないのですけれども、この点については何か御意見ございますか。

神山団長。

●公明党議員団団長（神山哲太郎） 今後、制度設計を行っていくということで、フレームづくりということが今議長のほうからお話しされましたけれども、2年の任

期ももうほとんど期間がないということもありまして、ぜひ、正副議長でたたき台をつくっていただいて、次回御提示願うような形にさせていただけると、我々もちょっと進めやすいかなと。今年度の方向性もしっかり見えてくるのではないかなというふうに思っておりますので、その点についてお願いしたいというふうに思います。

●議長（金澤俊）　ただいま神山団長から正副議長案の提案を提案されましたけれども、我々としても、ちょっと早くまとめていく上でも、そのようなことでできればと思っておりますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊）　それでは、そのように進めてさせていただきます。
市民との意見交換の手法については、以上で終わりたいと思います。

●議長（金澤俊）　次に、投票率の向上に向けての取組についてでございます。

今お話にありました10月19日開催の市民との意見交換会におきまして、この件をテーマとして明推協さんと啓発活動の現状、あるいは苦勞されているお話など、いろいろ伺いまして、大変有意義な時間であったと思います。

その際、明推協さんから市議会と協働での啓発活動等についてお話がありました。正副議長といたしましては、これは法的な問題もありますので、あるいは道義的な観点から、市民からの見え方というものについても配慮しなければいけないというところもございまして、明推協さんと選挙に直接関係がないような活動があるのであれば、一緒に行っていければなというふうに思っておりますけれども、何かできることが今この時点でこういうものがあるぞというものがあれば、各会派の代表の皆さんから出していただければと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼）　特に我々独自でやれることというのはなかなか、いろいろ制約があると伺っておりますので、ちょっと難しいのかなとは思っておりますが、ともかく全体として、選管さんも含めて、選挙に関心を持ってもらうというような何かキャンペーンができればいいのかなと。

過去のいろいろ、全国的な問題なのですけれども、親子で投票に行くというのですか、お父さん、お母さんが投票所に行くときにお子さんも連れて行った家庭のそのお子さんは大人になったときにやはり関心を持つと、6割以上の小さい頃の経験が大人になったときに大変それが生きて、そういった経験を持った方は6割以上の方が大人になったときに投票所に行くというような、そんな実際のそういうデータを見たこともありましたので、いかに関心を高めていくかということだろうなと思っておりますし、

あとは、いかに投票のしやすさというのですか、いつでもどこでもというか。最近は期日前投票が大変増えてきているということでございますので、大変大型の商業施設の投票率が非常に高いということでございますので、残念ながら、聞くところによりますと、せっかく投票率が高い期日前投票が入っている建物が、そこは何か当日、投票日当日はそこでは投票できないと。期日前投票のみは大型商業施設でできるというふうに聞いていますので、投票日当日もやはり皆さんが買物に来たついでに投票できるというか、そういった環境づくりも大切ではないかなと思っておりますので、いつでもどこでも簡単にと、そういうシンプルな投票制度を進めていくことが大切なのかなと思っております。

●議長（金澤俊） はい。

公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（神山哲太郎） 明推協さんのほうから、我々と一緒になって投票率を向上させましょう、そういった運動をしませんかという呼びかけがあったところでもありますけれども、なかなか制約があってできないという、法的制約の関係でできないということでありました。

では、今できることは何なのかということもいろいろあると思えますけれども、やはり若い人たちの投票率というのは非常に低いとか、そういったこともありますし、議員全体としてというよりは、やはり今の段階では各個々の議員がSNS等皆さんやっつけていらっしゃると思えますけれども、そういったことで投票を促すとか、棄権しないとか、そういった呼びかけをしっかりとやっていくと。SNSですので法的なことはクリアできるかなというふうに思いますので、今できることとしたらそういったことが考えられるのではないかなというふうに思っています。

今矢嶋代表のほうからもいろいろ選挙制度の問題、そういった投票の問題とか、場所の問題とかいろいろありましたけれども、それは全体的に今後も議論していくことが必要でありますし、逆に行政側に言っていく、訴えていくことということもかなり多くなっていくのではないかなというふうにも思っているところで、やはり今の段階としては、制約された中でどう個々が棄権しない、投票を棄権しないとか、そういった呼びかけをしっかりとやっていけることが重要であるというふうに考えているところです。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） やはり選挙に関わってくることなので、具体的な

提案というものがちょっとできないのかなというふうに会派では考えていました。

それで、独自でやる方法というのも見いだせない中で、協働啓発活動も松井委員と一緒にやって前回もやっていこうという提案もあったのですが、これも法律的に厳しいという見解を出された中で、一体何をしていけばいいのかなというところだったのですが、今神山団長のほうからもSNS等を使って棄権をしないような取組を進めるのもいいのではないかという意見もありました。

今コロナ禍の中で、今後のこういった啓発活動も厳しい状況に置かれるのかなとも思っているのですが、その中で一つ、今回も意見交換会の中で一緒にやっていきたいという気持ちは一緒だったと思うのです。そういった中で選挙に関わるものができないとなった中では、選挙とは一体何だろうと、当事者同士で意見を出し合ったり、実態や体験談を出し合ったりする機会をつくっていくことも必要なのかなと今考えました。

最初に戻ってしまいますけれども、独自でやる方法がないので、今後ちょっと皆さんといろいろと研究しながら意見を出せばいいなというふうに思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 明推協さんとの懇談の中で、協働の啓発活動が難しいということで、それは理解をしておりますけれども、一方では、その名前を売り込むわけでもないし、この話を蒸し返す話ではないですけれども、何でできないのかなと少し残念な気持ちではおります。

それで投票率の向上という意味では、社会的な要因と、あと議会そのもの自体の要因と大きくは2つ分かれるというふうに思います。社会的要因については、これは時間がかかることですし、なかなかその決定打というのは見いだせないのが現実の話だと思います。

そこで、今は新型コロナウイルスのコロナ禍の中で、議会の在り方というのも見直される、存在意義がただされるという状況に今あると思いますので、この中で議会の必要性とか存在意義をどうやったら高めていけるかということが投票率の向上にもつながるのではないかなというふうに思っております。しからは全体的に何をやっていけばいいのかということになりますけれども、それは今後の議論の中で検討していくということで、まずは先ほど神山団長がおっしゃったように、議員個々のコロナ禍における発信力とか対応力を高めていくということを心がけて、地道ではありますけれども、投票率の向上につなげていくということが必要かなというふうに考えている

ところです。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 新緑さんがおっしゃったことや公明党さん、そして今松井代表もおっしゃったようなこと、どれも取り組んでいかなければならない課題だなと思っています。

SNSなどで啓発していくということは積極的にやっていかなければならないと思いますし、投票のしやすさということでは、私たちも発信して、提案していきたいなとも思います。

もう一つ、この数年とても実感していることが、体調や高齢などの理由で投票に行けないという方が大変多くなっています。ただ、公職選挙法の中では、介護度4とか5とか、あと障害1級であるとかということにならないと郵送投票ができないということで、そこに至らないけれども投票所まで足を運べないという方たち、そういう方たちを公職選挙法を改正しないまでも、何か苦小牧でできることはないのかということも、皆で議論していきたいなと思っています。

若い方を投票所に足を運ばせるということも十分大切だと思いますし、行きたいけれども行けないのだという高齢の方たちも大事にした取組をみんなで知恵を出し合っ、議会としても考えていきたいなと思っていました。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 今まで皆さんもいろいろなことを言われており、それぞれ大切な視点ではないかなと思っていますが、ただ、やはり明るい選挙推進協議会だったかな、そこの考えることと我々が考えることはどうしても一緒にはならないというふうに思います。

そういう中で、我々には何ができるのかといっても、ふだんから我々投票に行ってください、私を応援してくださいと、そういう活動をしているわけで、さらにその上ということ是非常に難しいかなというふうに思います。

そういう中で、一つは、我々も考えれば、若干直接的には投票率に結びつくかどうか分かりませんが、やはり後輩の新人が出やすい環境をつくって行って、いろいろな人が出てくれば、やはりいろいろその人の友人であるとか、周りにこう広がりますから、そういう人たちが出やすい環境をつくっていくということは、例えば年金

の話なども国会で出ています。それは議論すれば賛成の人も反対の人もいると思いますが、そういうことですか、報酬の問題であるとか、いろいろな問題をここで議論すると。それは我々の責務ではないのかなというふうに思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

触沢議員。

●無所属（触沢高秀） はい。

後ろ向きな意見なのですけれども、いろいろ聞いていますと、明推協さんと一緒に何かをやるということは、やはり避けたほうがいいのではないかという考えでおります。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

今様々御意見伺いましたけれども、投票率の向上に向けて取り組まなければいけないということについては皆さん同じ方向は向いているのではないかと思いますので、あくまでも公職選挙法に引っかからないといえますか、違反にならない範囲内で何ができるかというのは、この議会としても引き続き模索をしていく。その中で明推協さんとできるものもあれば、そうではないものもあろうかと思いますので、そのような方向で投票率向上に向けて、引き続き取り組んでいくということかなと思いますので、この件についてはよろしいでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） ということで、共通認識を持ったということで、まずは整理をしたいと思います。

●議長（金澤俊） 次に、市議会だよりの在り方についてに行きたいと思っておりますけれども、9月11日開催の議会改革検討会におきまして、市議会だよりに代わる情報発信の具体的な方法につきましては、引き続き議会改革検討会において協議していくこととなっております。

資料3を御覧ください。

最初に、資料の上の表、市議会だより掲載内容の代替案についてでございますけれども、さきの議会改革検討会で各会派からいただきました御意見から、市議会だよりのページに対応するものを代替案として整理をさせていただいております。

新たなものについては網かけにしております、またその下の部分で説明をしております。

最初に、一つ目の定例会・臨時会の概要のページの代替案についてですが、これまで会議録検索システムに載せておりました本会議、予算・決算審査特別委員会の会議録に加えまして、4つの常任委員会、2つの特別委員会の会議録についてもシステムで検索可能にしたいと考えております。

また、定例会ごとに議題となった案件やその結果をまとめたものを定例会報告として事務局で作成をし、市議会ホームページに掲載することを考えております。

次に、2つ目の議会改革検討会のページの代替案については、これまでの取組内容に加え、検討項目それぞれについて整理をし、ホームページの充実を図ることを考えております。

次に、3つ目の会派のページの代替案については、令和3年度予算が可決された場合、タブレットが導入されることによりまして、会派の状況や議員の活動を速やかに発信でき、議員による情報発信の強化になると考えております。

また、市議会ホームページの議員名簿に各議員が行われているブログやフェイスブック、ツイッター等のSNSのリンク先を貼ることにより情報発信を強化できればと考えております。

また、欄外に記載しておりますが、市ホームページのトップページにおいて、市議会ホームページの表示をできるだけ見やすい形にすることについては、今後、市側と検討を行っていきたいと考えております。

次に、資料の下の表、紙媒体による情報発信を必要とする方への代替案についてでございますが、市議会ホームページに掲載する定例会報告を印刷しまして、コミュニティセンター等に設置することを考えております。また欄外に記載しておりますが、市側で作成の広報とまこまいへ記事を依頼することについては、これまでの経過もあり、厳しい状況にありますけれども、今後の状況を見ながら検討していきたいと、そのように考えております。

それでは、市議会だよりの代替案につきまして、各会派の御意見をお伺いしたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼）　　今御説明いただきましたので、おおむねこれでよろしいのかなと思っております。

そして、どうしても私が気になるのは、どうしても紙媒体で見たいという方のためのサービスの部分です。それで、できましたら公共施設にある程度置くということなのですけれども、やはり今まで全戸配布でございましたので、これに大体近いものとなりますと、どうしても欄外の最後に書いています広報とまこまいへの掲載をぜひ引

き続き、いろいろ条件あるかと思えますけれども、多少時期がずれても、広報とまこまいのほうにも議会ではこんなことが決まりましたよということを、市の広報としてお知らせすることは、僕は当然ではないのかなと思っておりますので、ここもメインでぜひ力を入れて、粘り強く編集している方に交渉していただきたいなと思っておりますので、我々も市の行政政策の一部、議会でこういうことが決まったということは市民にとっても大切なことであろうと思っておりますので、それが掲載されるのがハードルが高いというのは僕はおかしいなと思っておりますので、ぜひ広報とまこまいへの掲載、これは僕は当たり前のことではないのかなと思っておりますので、引き続き粘り強く進めていきたい、いっていただければと思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（神山哲太郎） 我が会派としては、この代替案でおおむね了解ということでお願いしたいと思えます。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 私どもも、この代替案について、全て網羅をされたかなというふうに考えてはいます。

今後、議会だよりがなくなって、この手法でいく場合に、いろいろと不具合も出てくると思います。その都度ブラッシュアップできればなというふうに思いますので、その辺りも鑑みて、進捗をさらに深めていっていただければというふうに思います。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 私どももこの代替案で結構かなというふうに思っています。

ちょっと一つ、実現可能かということも含めて頭出し、提案をしておきたいのですが、議会の会派ページの代替案、ここに2つほど載っておりますけれども、議会だよりの中の会派ページで今各会派の議員が議会ごとで取り組んだ質疑とか質問とかの内容を載せておりますけれども、ああいった形のを議会ホームページの中にテキスト形式で載せられるようなスペースみたいなものがあれば、議会だよりのその代替案になるのではないかなというふうに思っています、容量の問題とか、会派の

責任で会派がやるということであれば、事情が許せばそういったことも一つ考えられるのではないかなというふうに思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 私たちもおおむねこの代替案で了解いたします。

一つ私も付け加えさせていただくと、新緑さんと同じで、どうしても紙媒体のほうがいいという方、もしくはいろいろなSNSやホームページなどで見ることができないという環境の方にもぜひ市議会のことを伝えたいという観点から、議会ごとで議会のことを載せるというのは難しいと思うのですが、1年間の中に1回、2回でもいいので、広報とまこまいで市議会のことを紹介してもらえそうなページをつくってもらえるように、これからも努力していただきたいなということをお願いしたいと思います。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） これでやむを得ないだろうとは思っておりますが、ちょっとお聞きしたいのですが、この会派のページで、個人のSNSであるとかフェイスブックであるとか、そういうものという部分で、例えば今度はみんなタブレットを持つわけです。その中に、例えば我々の会派市民とか、そういうそれぞれの会派、私は会派市民だろうし、皆さん方はそれぞれの会派のページをつくって、そこに移動するということはもちろんそうだろうとは思いますが、そのほかに、個人的な、本当に個人でやっているようなところに飛ぶということになったら、果たして市議会としてそれでいいのかなという気はちょっとあります。個人の皆さんのやっているものに飛ぶということは。やはり市議会のホームページから飛ぶところは皆さんが持ったタブレット上のところにそのようなページを新たにつくって、そこに飛んでその内容を、会派の人たちの内容を見るというようなほうにしたほうがいいのではないかなというのちょっと提案だけさせていただきます。

以上でございます。

●議長（金澤俊） はい。

触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 今松井代表がおっしゃられたのですけれども、私も議会だ

より委員会でやっています、会派ページがやはり、その議会のホームページから会派のページに飛ぶような形、ちょっと確認ですけれども、そういう形になって、会派の活動がそこに載っていると、議会だよりのような見出しというか、これこれをやりましたという流れになるのでしょうか。現状答えられる範囲でいいのですけれども。

●議長（金澤俊） ICTの座長が隣にいますので、まず、そこも話し合っているかもしれないので、ちょっと答えていただきます。答えられる範囲で。

副議長。

●副議長（藤田広美） 取りあえず今出ているのは、個人のホームページであるとかSNSのリンクを貼るといことが考えられていますけれども、これは例えば会派のページにすることも可能なので、これは今後のタブレットが来てからのいろいろな検討もする必要があると思うのですけれども、どちらにしても可能です。会派でのページをつくって、それを飛ばせることも可能です。また個人のページを張りつけて飛ばすことも可能です。

そういうことも踏まえて、タブレットが来てからどういったことができるかということは今後また検討していきたいと考えています。

●無所属（触沢高秀） 議会だよりの構成からいけば会派ページがメインになっていると思っていますので、私は一人会派なので何ともあれですけれども、会派の発信としては、やはりあったほうがいいと思いますので、それは意見として、ぜひつくっていただきたいなと思います。

以上です。

●議長（金澤俊） はい、ありがとうございます。

まず、今各会派からの御意見では、この議会だよりの代替案についてはおおむねオーケーということかと思えます。

それから、松井代表と桜井会長のほうからもありましたけれども、いわゆる会派か個人かというところで、まず会派でそういったページをつくるということは問題ないであろうと思います。

ただ、個人でどうかと、個人のリンク、フェイスブック、SNSにリンクすることなども他の自治体でもやっていることですので、このいわゆる公費の扱いとしてやることは問題ないかと思えます。ただ、会派としてそうやってやる、もしくは個人は駄目よというルールをつくるかどうかというのは、もうこれは決めだけの問題なので、いかように、どちらもできるということです。

桜井会長。

●会派市民会長（桜井忠） やはり個人のやつは非常に、例えば選挙みたいなどこ

ろでも、自分に応援してください的なことをいろいろ書くわけです。選挙が近くなってきたりなんかすると。そういうところにいきなり飛んでいくよりは、会派のページみたいところに1回飛んで、逆にそこから、さらに桜井の細かいことを聞きたいといたらそういうところに行くと。やはり1段階クッションを置いたほうが、私は何かと市民から、何だあいつ、公費がその人の個人の選挙活動をやっているのかみたいなふうに言われなくていいのではないかなというのが私の意見です。

●議長（金澤俊）　　こういう機会ですから、賛同する意見、反対する意見、もしあれば、その辺の細かな話も都度変えていけばいいのかなとは思うのですけれども、何か今あれば。

松井代表。

●改革フォーラム代表（松井雅宏）　　桜井会長がおっしゃっていることはよく分かりますけれども、一方では、その議員活動の見える化というものが大切だというふうに思っています。

ホームページを持つにしても、フェイスブックはお金がかからないと思いますけれども、ある程度自前でつくっているものでありますので、そこに公費を使うという表現が正しいのかどうか分からないですけれども、アドレスを張りつけるだけでそこに飛んでいくわけですから、つながりたい人はつながり、つながたくない人はつながりません。そういった意味では、許容範囲の中でできることではないかなと、私個人的には思っているところです。

●議長（金澤俊）　　技術的には桜井会長も言われましたように、できることで、今共産党さんも会派のホームページを持っていて、そこで議員ごとの活動はそれぞれが書いています。そこに一旦そうやってクッションを置いてやるかどうかという、ある意味ではそういう話だけなのかもしれませんが。今は違うのですか、そういう形ではない。やっていますよね。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵）　　はい。

●議長（金澤俊）　　だから、そのようなものかなと思います。この辺についてはまたちょっと皆さんと議論しながら詰めさせていただきたいというふうには思います。

市議会だよりの代替案、このような形でやっていきますけれども、この議会だよりの最終号が近々迫っておりまして、編集委員長にこの市議会だよりの代替案は今後こうなりますというのは申し送って掲載してもらおうと思っておりますので、その点についてはよろしいですね。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊）　　では、そのようにさせていただきたいと思えます。

●議長（金澤俊） 4番目の傍聴者アンケートについてに入りたいと思います。

この件につきましては、令和元年6月の議会改革検討会で広報広聴の充実を目的に市民からアンケートを取って声を聞くことが検討され、傍聴者を対象に行ってはどうかとの意見が出されましたことから、アンケートの実施が決定されておりました。

アンケートは、令和元年第3回定例会、9月定例会から開始されておりました、各会派から出された意見では、アンケートの実施期間については1年程度とすることで確認されておりましたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、傍聴の禁止及び人数制限を行ったことで、予定をしておりました期間を延長して実施しておりましたが、傍聴者アンケートを開始して既に1年が経過していることから、12月定例会をもちまして終了したいと考えております。

この件に関して、各会派の意向を確認させていただきます。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） まずはアンケートに関しましては12月、1年を超えてやりましたので、12月議会で1回閉めていただいて、その集計の期間も必要ですので、前期の最後の2月議会にこういった結果でしたという集計も出さなければいけないと思いますので、12月議会まで一旦アンケートを閉めていただいて、そして次の2月議会に、このアンケート結果のまとめをもし出すことができればありがたいなと思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） はい。

公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（神山哲太郎） 今議長が言われたように、一旦12月定例会をもって終了したということで、それで結果がどういうふうになっているか、そこは一番我々としては知りたいところだなというふうに思っていますが、今期中にまとまるというのは無理なのかどうなのかは、まずその点が知りたいのと、もしまとまらなければ次期でも構いませんけれども、それを基に、いろいろなことで、市民から傍聴していただいたことで、いろいろな提案とか、また議会改革につながるものがいっぱい出てくるのだろうかというふうに思っているところですので、それについては結果を出した後、集計をして、次期になるのか今期になるのかは分かりませんが、次期以降も議会改革の材料としてやっていくということをぜひお願いしたいというふうに思っているところです。

以上です。

●議長（金澤俊） はい、ありがとうございます。
民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 12月で終了することには異議はありません。
また、2月に今の話で結果が出るというふうなお話であったであろうというふうに思います。これまで1年間アンケートを取ってきた中で、市議会についての意見を書いていただいているところがあるかなというふうに思います。そこで出された意見は、今後、どういうふうに反映させていくのか、また、取っただけでは意味がありませんので、総括も公表できるような体制をつくっていくのが肝要ではないかというふうに考えています。

以上です。

●議長（金澤俊） はい、ありがとうございます。
改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 正副議長提案どおりで結構です。

●議長（金澤俊） はい、ありがとうございます。
日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 私も同調いたします。

●議長（金澤俊） はい。
会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 同意します。

●議長（金澤俊） はい。
触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 同意いたします。

●議長（金澤俊） はい、ありがとうございます。
全会派から今御了承いただきました。

今事務局さんにも確認しましたが、2月の定例会には集計結果が出せると思いますので、そこでまた皆さんには結果を御覧いただきたいと思いますと思いますが、去年、我々の1年目のときも、議場が暑いとかということで、アンケートの結果を受けてすぐ対応させていただいたこともありますので、そのような形で意見というのは非常に役立ったのかなというふうには思っております。いずれにしても、2月に集計結果を出させていただけますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

●議長（金澤俊） 最後に、議会改革検討会検討項目の進捗状況についてでございます。

この件につきましては、令和元年5月の改選後からこのメンバーで検討項目について協議を行い、取り組んでまいりましたが、今年度末でちょうど任期の折り返しとなりますことから、正副議長といたしましては、一度検討項目に対する進捗状況を整理したいと考えております。

進捗状況を整理した上で、今年度中に協議を進めていくものや後半の任期で検討していただく項目について皆さんと協議を行いたいと考えておりますが、この件に関して皆さん何か御意見ございますでしょうか。特にないですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

●議長(金澤俊) それでは、そのように進めさせていただきます。

お手元の資料4を御覧いただきたいと思えます。

議会改革検討会検討項目の進捗状況について一覧にしたものでございます。

最初に、1の市議会基本条例でございます。

全員協議会の位置づけについては、全員協議会に関する要領を策定し、令和元年1月に議員定数を協議事項とし、議員間討議を行い、全員協議会を実施しております。

広報広聴の充実についての定例記者会見については、令和元年6月から実施しております。

傍聴者アンケートについては、今申し上げましたとおり、令和元年9月から実施しております。

市民との意見交換の手法につきましては、令和2年10月に投票率の向上に向けての取組についてをテーマとした意見交換会を実施しております。

なお、本格実施に向けました協議を引き続き行っていく必要があるかと思っております。

条例の研修については、令和元年7月に実施しております。

次に、2の投票率の向上に向けての取組については、この項目をテーマとした意見交換会を実施しております。

次に、議員定数・報酬については、議員定数につきましては、全員協議会を踏まえ、現状維持の28人と決定をしております。議員報酬につきましては、新型コロナの影響による市内の経済悪化等の状況を鑑み、状況を見ながらしかるべきときに協議をしたいというふうに考えております。

次に、4の議会のICT化の推進については、実務者会議を構成し協議を行い、タブレットは令和3年度に導入予定となっております。

最後に、5の市議会だよりの在り方については、現状の市議会だよりを発展的に見直すこととし、情報発信の具体的な方法については引き続き協議を行うこととしてお

ります。

検討項目の進捗状況についての説明は以上となりますが、この件につきましては各会派に一旦お持ち帰りし、協議していただき、2月定例会の議会改革検討会において進捗状況についての感想や評価を含めた振り返りを行い、後半の任期中で検討していただく項目についての協議を行いたいと考えておりますが、この件に関してはよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●議長(金澤俊) それでは、そのように取り扱わせていただきます。

●議長(金澤俊) その他、皆様から何かございますでしょうか。

桜井会長。

●会派市民会長(桜井忠) その他ということで、今国のほうで押印廃止のことをいろいろやっていると思います。

例えばですが、議会でも議事録にサインするのはサインでいいけれども、質問の通告は押印が必要であるとか、そういうことがあるので、今すぐこれをどうのこうのではなくて、その辺を事務局でちょっと、こういうものがある、ないというものを整理していただいて、今後、そのことも議論していただければなというふうに思うのです。

●議長(金澤俊) 今ちょっと頭出しというか、提案的なものであったと思います。中身としては、押印廃止に伴って、今判こをついているもの、ついていないものというのがあるから、それをまず一旦整理して、今後、その動きの中でどうなるかということですね。

ちょっとそれは先が見えないところもあるので、これは議会改革の検討項目として扱うかどうかというところもちょっとあるものですから、ちょっと一旦預らせていただきたいと思います。

その他、何かございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

●議長(金澤俊) それでは、以上で本日の議会改革検討会を終了いたします。御苦労さまでした。

散 会 午後0時17分

以 上。